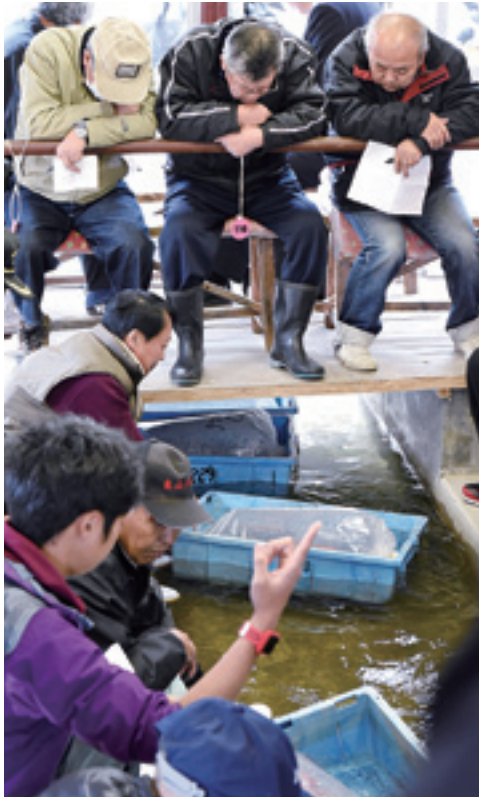


春風！ニシキゴイ初せり



▲ニシキゴイを品定めする買い付け人



▲番台の軽快な掛け声が響き渡る初セリ

番台軽快 232舟出荷

農業遺産認定・県の鑑賞魚指定も励み

4月13日（金）、春の風物詩として知られるニシキゴイの初せりが、南荷頃にあるJA越後おぢや錦鯉市場で行われ、今年の取引がスタートしました。初せり市場には、生産者や買い付け人等関係者ら約100人が市場を訪れ、開場を祝いました。

初せりでは、「舟」と呼ばれるケースごと市場内の水路にニシキゴイを搬入。番台の軽快な掛け声のもと、県内外から集まった約30人の買い付け人が次々と競り落としました。この日は、市内外の生産者34人が232舟を出荷しました。

谷口熊一組合長は「昨年は、雪の恵みを活かした稲作・養鯉（よつり）システムが日本農業遺産の認定を受けた。また、ニシキゴイが県の鑑賞魚に指定された。良い年だった昨年に続き、今



▲「舟」と呼ばれるニシキゴイの入ったケースが並ぶ市場

年も素晴らしい年になるだろう」とあいさつしました。

ニシキゴイ生産者でJAの坂詰晋作理事は「せりが始まると春を感じる。ニシキゴイはきれいな出来で、最高のコンディションだ」と話しました。

ニシキゴイは「泳ぐ宝石」とも呼ばれ、同市場は、県内で唯一のニシキゴイ取引市場です。

市場は11月30日までの金曜日に関き、年間32回を予定しています。8月17日と9月7日は休場です。